

令和5年度 第4回那須町教育・保育施設未来検討委員会

会議録(要点記録)

日時：令和6年3月11日(月) 13:28~16:10

場所：那須町役場 正庁

項目	内容
1 開会	
2 委員長 あいさつ	子どもだけではなく人口が減る。また、保育士のなり手も減っている。今回は第4回ということで、今後の那須町の展望も視野に入れながら、最終的な結論を求めていきたいと思う。
3 教育長 あいさつ	昨年の6月に発足、7月の会議を皮切りに皆さんから沢山意見をいただいた。それらの意見やアンケートの結果をもとに事務局よりいくつか案を示すので、忌憚ない意見をいただきたい。
4 議事	<p>(1) 公立保育園の在り方について（最終案の検討） <事務局></p> <p>1 答申に向けた審議 （これまでの審議の経過を説明した。）</p> <p>2 最終案の検討 那須町第2期保育園運営適正化・整備計画に基づく、黒田原第2保育園（以下「第2保育園」という。）と千振保育園の今後の方向性について、「集団保育を提供できる環境が整備できるか」「適正な財政運営が確保できるか」「他の類似施設との距離」の3つの指標を基に保護者説明やアンケートを行いながら検討し、次の3案を作成の上、委員会としての意見をまとめた。</p> <p>【案1】「第2保育園及び千振保育園を存続」 【意見】近年の那須町の出生数は顕著に減少していることから将来的に統廃合は必至であり、運営費・維持管理費・人件費を含め適正な財政運営を行う上でも長期的に2園を存続させることは難しい。</p> <p>【案2】「第2保育園を黒田原第1保育園に統合」かつ「千振保育園を定員（規模）を縮小し存続」 【意見】推計から、黒田原第1保育園は第2保育園の受け皿としては十分機能できる。ただし、統合する場合</p>

は、園児や保護者への配慮や駐車場等の整備が必要。
一方、千振保育園は地域拠点の一つであることや、送迎の負担増等保護者への影響が大きいことから、小規模園として存続するのはどうか。また人口減少と施設補修が必要な観点から、保育所以外の機能を併せ持つ複合施設としての整備が望ましい。

【案3】第2保育園及び千振保育園を黒田原第1保育園に統合

【意見】推計から、3園を統合すると定員を超過する可能性がある。保護者アンケートでは引き続き公立園を希望する声も多いことから同時に統廃合することは難しい。

以上より、【案2】を本委員会としての答申とする。ただし、保護者アンケートや本委員会の議論の中で、統廃合については賛否両論様々な意見があったことから、統廃合については次の点において配慮すべきとの意見を付することとする。

- ① 統合の時期については、在園児の急激な環境の変化に対して十分に配慮すること。
- ② 在園児の保護者に対し、丁寧に内容を説明する場を設けること。
- ③ 転園等する際は、保護者の希望に沿った意向となるよう努めること。
- ④ 統合後の十分な教育環境の整備のため、適宜施設の改修工事を行うこと。
- ⑤ 保護者アンケートでニーズの高かった保育サービス（一時預かり・休日保育・病児保育）の実施に向け公立保育園・私立保育園の役割を設け今後、スピード感を持って取り組むこと。
- ⑥ 教育・保育施設を維持するにあたり、保育士の確保においては職場環境の改善や長く働ける仕組みづくりなど保育士のケアを町は十分に支援すること。

<委員長>

不明な点や要望・意見が反映されていない点はあるか。

<委員>

行政が行うことなので、財政負担にも目を向ける必要がある。仮に【案2】となった場合、どの程度財政負担が軽減されるのか。また、答えられる範囲で【案1】や【案3】との差は。

<事務局>

おおよそだが、第2保育園を廃止した場合、職員の人件費が約4,000万円、給食調理の委託料が約1,000万円、管理費が約1,000万円程度の削減となる。また、千振保育園については人件費の削減のみなので、500～1,000万円ほどの削減となる。

<委員>

では、【案2】のとおりとなると、駐車場の整備においては財政負担があるが、長期的には財政負担は減るという事でよいか。

<事務局>

お見込みのとおり。中学校が近いので、共用の駐車場として使用することも考えられる。

<委員>

アンケートから千振保育園の保護者の意見が反映されていることは分かるが、第2保育園の統合については反対意見が圧倒的だった。前述の①～⑥を入れることが第2保育園の意見を汲んだ部分ということによいか。

<事務局>

第2保育園の統合については、反対意見が多かったのも承知している。事務局としては存続できる保育園運営のため、理解をお願いしたいと思っている。

(2) 教育・保育施設の在り方について（最終案の検討）

<事務局>

○最終案の検討

出生数は減少するものの、共働き世帯の増加により長時間預けられる近くの保育園を選ぶ保護者が多いため、幼稚園や認定こども園の設置者は、開所時間や受入れ年齢を保護者のニーズに合わせていく必要があるという意見や、一方で事業者としては町の後方支援も欠かせないという意見があった。

また、那須町として移住政策（二地域抛居住・地方移住）の一つとして、教育施設におけるデュアルスクールの取組みや保育園への留学、公立の認定こども園として幼児教育の場を提供してはどうかという意見もあった。

保護者のニーズにあった教育・保育施設を保護者に提示できるよう、町と町内の教育・保育施設が一体となつての町民の幼児教育に取り組んでいきたいと考える。

<委員長>

不明な点や要望・意見が反映されていない点、不足はあるか。

<委員>

町の保護者会連合会にて町内の教育・保育施設全てに行き届くようアンケートを実施し、現在まで134件回答があった。小学生のきょうだいがいる園児の保護者からも回答があり、学童が少ないことや観光地域にもかかわらず休日保育に対応する園がないなどの意見があった。また、町の補助が手厚ければもっと子どもを産んでも良いという方がいることや、先進自治体の事例から希望する補助や、妊娠期の補助の要望なども意見があった。町立保育園の統廃合についても記載があったが、こちらは今後の説明会等でお話しいただければと思う。

最後になるが、統廃合のスケジュールは決まっているのか。
<事務局>

発表までは時間を要するが、子育て支援について現在で様々な施策を講じているところである。これまでもオムツ券や子ども医療費の無償化を県内でも早い段階で実施したところだが、少子化対策に結びつかなかったことも事実。その他妊娠・出産時に5万円の給付、第3子以降保育料等の免除、また、今後は第2子以降の保育料等免除の開始、その他学童や休日保育や発達支援に関する対応など、今後も子育てに関する補助は拡充していく予定である。

スケジュールは、まず、本日の検討結果を令和5年度中に町の子育て会議の委員長あて報告する。そして、それを踏まえ統廃合の時期を含め庁内の意思決定を行い、那須町第2期保育園運営適正化・整備計画の変更の上、保護者に説明していく。

また、伊王野保育園の入園児童の減少も著しく、公立保育園の適正配置については那須町第3期保育園運営適正化・整備計画策定の中で引き続き検討し、今後小学校の在り方の検討もあることから、教育・保育施設の在り方についても、今後も分科会などで引き続き検討していければと考えている。

<委員>

町も色々施策を講じていることは承知しているが、子ども医療費無料などは県内全ての市町で既に実施されており、子育てにおいて那須町が選ばれる施策ではない。もっと他市町村と差別化できる施策があると良いと思う。なお、栃木県が行う妊産婦医療は全国的にも4県しか実施していないので、もっとアピールしたら良い。

<委員長>

テレビなどでも移住に関する番組等が放送されていたりするので、PRの方法はあるかと思われる。

<委員>

自身の法人が運営している町内の保育園について、その園に入りたいが移住したくともアパート・マンションがない、という都心の方からの電話やメールでの問い合わせが多数ある。今回の方針案にもあるように移住に関する施策を推進するのであれば、住宅地の用意など町としてできることがあるのではないか。人口が増えれば税収も上がるので、教育や保育に関する補助金も増えるのではないか。優先順位を決めて将来的なことを考えていただけたらと思う。

公立園の民営化など今後5年先、10年先の教育・保育施設の在り方はどうなるのか。

<事務局>

まず、公立園については、伊王野保育園が令和6年度末において園児の定員が90名のところ61名しかいない。地域の拠点ということを考慮すると、千振保育園同様、小規模園化や複合施設としての整備をすぐにでも考えていかなければならない。公立園は、比較的安定した人員の確保ができることから様々な事業を進めることができるなどその役割があると考えており、他方、私立園については、入園児を減らさずこのままの人数を維持できればと思っている。また、公立園に係る新たな民営化については、地域柄として馴染まない部分もあるため、現段階においては新たな展開はないと考えている。

住宅の問題については、事前に話を聞いてるので、企画政策課に伝える。

<委員>

ふるさと定住課の移住、定住においては、子育て世帯向け住居のウイングビーナスが満室になったことから、町としても新たな住宅に関する施策を検討している。今後モリビングシフト推進室において縦ではなく横のつながりで活発に情報共有しながら積極的に施策を推進していければと思っている。

<委員長>

この会議だけでは解決しない、課を越えた連携が必要である。

<委員>

アンケートの中で、意外な意見や特筆すべき意見等あったか。また、今後も同様のアンケートを実施する予定はあるか。

<事務局>

今回のアンケートでは、意外にも那須高原保育園の保護者からいただいた意見が多かった。民営化についての所感や保育士

の確保に関する意見もあった。その他観光地なので休日保育や病児・病後児保育に対するニーズが多く、早めに施策を推進する必要があると感じた。

今ちょうど子ども子育て支援計画を策定するためのアンケートを聴取しているが、本件についてのアンケートはこれで一旦は終了となるため、今後は機会に応じてアンケートを取っていただければと考えている。

<委員>

今回町の保護者会連合会におけるアンケートにより、企業と協定を結んでいただくところまでやっていただき、ありがたかった。きっかけは様々あると思うが、保護者の意見を吸い上げるという機会があるとよい。お金がないことは重々承知しているので、お金のかからない那須町の魅力の発信を行うと良い。

<委員長>

黒田原第2保育園が統合されることによって、現在問題となっている保育士不足は解消するのか。

<事務局>

保育士不足は慢性的なものであるが、統合することによって保育士資格を持たない保育補助を10名雇用せずともよくなる。ただし、保育士が休憩を取れていないことから、保育士補助の雇用を継続したまま雇用環境を充足させることも考えられる。

<委員長>

人材確保のため小・中学校教諭の保育士資格、幼稚園教諭資格の洗い出し、未取得の者は就職後であっても保育園資格を取得させ、公立小学校から公立保育園への異動を可能にしたことがある。また、採用の際には、幼稚園教諭や保育士の資格を持つ者を優先して採用するなど、お金があってもならない人材不足に備える事例である。那須町は小さい町だからこそ同じようなことができるのではないか。乳幼児に関わる仕事は10年先もなくなる。10年後、15年後の保育従事者の不足について考えなければならないと思う。

<委員長>

最後に皆様から一言をいただきたい。

<委員>

保護者会代表として臨んだが、第2保育園の統合に反対されている保護者の希望どおりとならず申し訳ないと思う一方、黒田原第1保育園との距離的にも町の財政的にも仕方がないと思われる部分もあったかと思う。保護者としては残念だが、

町が存続するための一つの結論であり、今後も保護者に対して丁寧な説明を行ってほしい。

<委員>

保護者が意見を言える場があるというのはとても重要なことだと思う。保護者会は正直面倒な部分も多いが、それがないと当事者意識が薄れてしまう。もっと気軽に若者たちに話を振っていただけるとありがたい。

<委員>

人口減少は女性の社会進出が進めば仕方のないことだと思う。目の前にやりがいのある仕事があれば、男性のように仕事をしたいと考える。ただし出産は年齢的な部分もある。社会に出る方もいるし、1人の楽しみも増えている。国ではお金というが、お金の問題ではなく、自分の時間を取られるのが嫌な方もいる。それらを超えるくらいの素敵パートナーがいれば、子どもを産んでもいいかな、と思われる方もいるのではないかな。町でお見合い大作戦みたいなことをやったら少しでも少子化に歯止めがきくのではないかな。

<委員>

この会議に来るたび、色々な意見を聞けるのが楽しみだった。もっと那須町をアピールしたいと強く思った。今後ともよろしくお願いしたい。

<委員>

那須町で生まれ、那須町で育った。この会議に出席し、いかに人口減少が進んでいるか、子育て世帯が大変であるかを肌で感じた。質問が2つあるが、那須町への転入者は高齢者が多いのは本当か。また、那須塩原に引っ越す方も多いのか。

<委員>

本当である。60歳以上の方の転入が圧倒的に多い。また、若い人では那須塩原に引っ越す方も多いと肌感覚で感じる。

<委員>

移住希望の方がいると聞いたのは嬉しい。住宅施策を行えばまだ那須町に来ていただける可能性がある。この会議には子育て現役世帯や年齢層、関係性が様々な方が出席しており、そのような方々と話し合いができる場があるのは良かったと思うし、今後もこのような場があると良いと思った。

<委員>

まだ子育てはしていないが、自分事ととらえて参加させていただいた。資料をみるとなかなか厳しい現実もあるが、那須町

	<p>を思ってくれる事業所も多いのでそういった事業所も巻き込みながらもっとお金じゃない部分でご支援いただける方もたくさんいるのではないかと。また、本委員会で統廃合の案が示されたが、財政削減できるとして、削減できたものをどのように活用していくかもしっかり検討し、保護者に説明して行ってほしい。</p> <p><委員></p> <p>教育・保育に関わっている皆様のお話を聞くことができたことが貴重だった。今後自身の仕事にも生かしていきたいと思う。</p> <p><委員></p> <p>それぞれの立場でそれぞれの意見をいただき、とても有意義なものとなったと思う。自分も保育園があったから安心して働くことができた。昔は普通だったことが今は普通ではない。新しいアイデアを出しながら那須町をよりよくして良ければと思っている。</p> <p><委員></p> <p>統廃合の必要性において6点あったが、統廃合については大人の都合である。子どものストレスにならないよう注意いただきたい。また、保護者に対しての丁寧な内容説明を行ってほしい。統合ありきで話を進めると保護者の方は耳を傾けてくれない。保護者の中でも致し方ないと思う方もいるが、今の第2保育園の雰囲気が良いと言ってくれる保護者のニーズを拾って反映して行ってほしい。</p> <p>保育士の確保については、休憩時間も取れない職場環境である。保護者対応はもちろん、事務の時間が増えた。集中して仕事ができる時間が取れるよう考えていただけるとよい。また、職員の異動があっても事務引継をしっかりとしてほしい。</p> <p><委員長></p> <p>人材不足については、保護者の中に潜在保育士がいるとも考えられるので、そういった方にお手伝いいただくこともあった。</p> <p><教育長></p> <p>今後も統廃合・適正配置ありきではない議論を教育委員会一丸となって検討していければよいと思う。</p> <p><事務局></p> <p>以上をもって那須町教育・保育施設未来検討委員を終了する。</p>
4	その他
5	閉会

那須町教育・保育施設未来検討委員会委員名簿

【委員】

	団体等名	氏名	出欠等
1	宇都宮共和大学非常勤講師	高柳 恭子	出席
2	那須町保育園保護者（公立）	青木 優磨	出席
3	那須町保育園保護者（私立）	土屋 公克	出席
4	認定こども園・幼稚園保護者会	鈴木 幸子	出席
5	認定こども園・幼稚園施設長	高橋 明男	欠席
6	私立保育園施設長	吉田 泰子	出席
7	那須町自治会連合会	秋元 優	出席
8	那須町民生児童委員協議会	新巻 はるみ	出席
9	那須町地域活性化起業人	松井 彩	出席
10	那須町小中学校長会	遠藤 克朗	出席
11	那須町子育て支援センター所長	渡邊 幸子	出席
12	那須町保育園長	佐藤 恵美子	出席

【事務局】

	所 属	職 名	氏 名	出欠等
1	こども未来課	課長	大森 貴之	出席
2	〃	課長補佐兼こども政策係長	君島 絹代	出席
3	〃	保育係長	薄井 宏美	出席
4	〃	管理係長	仙波 勇気	欠席
5	〃	保育係係員	相馬 和紀	出席